

大阪

ひと語り

少年院で教え続け50年

傷害や窃盗などを犯した非行少年たちが社会復帰を目指して更生に取り組む浪速少年院（茨木市）は今年創立100周年を迎えました。その長い歴史のちょうど半分、50年におたって、約5000人の少年たちにそろばんを教え続けてきたボランティアがいます。元高校教諭で、そろばん塾を経営する大西信二さん（83）です。

少年院でそろばん指導を始めたのは教師になって10年の1973年、教え子が少年院に入ったのがきっかけでした。担任をしていたクラスの生徒が春休みに知人らと傷害事件を起こしたのです。教え子はすぐに退学処分になったため、学校との関係はなくなってしまったのですが、顧問をしていた部活の生徒でもあったため、教師としての責任を感じて、少年院へ面会に行きました。何度も通ううちに、担当教官から「少年たちにそろばんを教えてもらえないだろうか」と頼まれました。

元高校教諭 そろばん塾経営
大西 信二さん 83



世の中は金で動いていまず、再び犯罪に手を染めてしす。数字に強くならなければ、まうかもしれない。勤務せつかく社会に戻っても自立先年の私立高校と相談し、「少年院へのせめてもの恩返し

大阪市北区出身。立命館大経済学部卒。木材商の次男として、「商人の子はそろばんの一つも出来んとあかん」と言われ、小学3年から習い始める。大学では珠算研究部(現・珠算部)に所属。

に」との思いから引き受けました。

◇ 月2日、少年院での指導を始めました。多い時には一度に70〜80人に教えました。最初は教え子が出院するまでの1年間と考えていましたが、そろばんが上達することで自信をつけていく少年たちの姿に感銘を受け、その後も引き受けることになりました。

短期間で集中して学べるようにとテキストは自作しました。意欲を引き出し、目標を持たせるため、そろばん大会を実施したり、少年院の中で日本商工会議所の検定試験を受けられるようにしたりしました。約13か月間の収容期間中に才能を開花させ、1級や初段を取る少年もたくさんいます。

少年たちには「努力すれば誰でも上達するのがそろばんや」と言い続けています。そろばんで脳を使うことで、先行きを予測したり、他人の心を読んだりする想像力も養っ

てもらいたいと思い、教壇に立っています。これまで教えた元少年の中には、その後牧師や弁護士として少年の更生に携わっている者もいます。

◇ 民間ボランティアであることには変わりませんが、88年には正式に法務省からそろばん教師としての嘱託を受け、「篤志面接委員」になりました。長年の活動から、2016年に藍綬褒章もいただきました。

半世紀も続けてこられた原動力は、少年たちの更生に役立つことができたと喜びです。前向きな気持ちで社会に復帰していく少年たちの姿を見届けると、いつもすがすがしい気持ちで胸がいっぱいになります。5000人の少年たちのおかげです。

大学在学中に始めたそろばん塾の経営が忙しくなったため、高校教師は46歳で退職しましたが、少年院での指導は辞めませんでした。報酬のない手弁当だったからこそ、純粹な社会奉仕の気持ちで続けられたのでしょう。これからも体力の続く限り、一生続けたいと思っています。

(聞き手・福永健人)

年ぶり

間に設けら
の音に合わ
きや、声援
写真
豊中市の大
は「この大
しさん(62)
所で、水も
た」と喜ん

で優勝した北
(20日、北
洋祐撮影

したい」と前を向いた。
競泳男子4000メートル個人メ
ドレー4位の桃山学院・山
口里塚選手(3年)「20